

関係機関訪問第2弾

帯広近郊就労系障がい福祉サービス
事業所への聞き取り調査をスタートしました！



令和2年9月29日（火）
就労継続支援B型事業所
Cafe るくら（帯広市）

令和2年10月5日（月）
就労移行支援事業所まなびや
就労継続支援B型事業所
ペットショップいきものがかり
本店・ラビット店（帯広市）

令和2年10月9日（金）
株式会社 一落芭（帯広市）

就労継続支援B型事業所 Cafe るくら

Cafe るくらは、とかちダルクを運営母体とし、依存症からの回復に取り組まれている方々が、自立に向けて次のステップを図ること、居場所として利用頂くことを目的に約5年前より開設されたようです。依存症に特化した就労継続支援B型事業所は管内のみならず他の地域にもなかなかない中で、最近ではお客様として来店した障がいをお持ちの方が利用に繋がるなど、その他のニーズを持つ利用者も増えつつあるようです。その中で、利用者が増えることの嬉しさがありながらも、依存症を抱えている方と障がいをお持ちの方の両者に同時に関わっていくことの難しさが出てきている現状についても伺いました。コロナウイルス感染症の自粛期間中は、休業要請を受けお店はお休みをされていましたが、利用者の居場所を無くしてはならないとの思いから、所内での活動は継続されていたそうです。最近ではお弁当配達注文が戻ってきてはいるものの、周辺でテイクアウトのお店が増えていることもあり、今後の販路の確保などが運営の課題とのことでした。就労を回復の目標とするのではなく『回復の一つの形』としての就労がある、という姿勢で運営しているという言葉が印象的でした。



支援員の方にご対応いただきました。

就労移行支援事業所 まなびや

就労継続支援B型事業所 ペットショップいきものがかり(本店・ラビット店)

多機能型事業所として、市内でペットショップを営んでいるいきものがかりを訪問しました。【本店】では日中活動の充実を目標とされている方が利用されている一方、【ラビット店】では、就労を考えている方が主に利用されており、移行利用者・B型利用者がお互いを意識することによって就労意識に繋がる関わりが出来るように環境を整えているそうです。B型利用で就労を目指している方には、まずは移行へステップアップすることを目標にしてもらいながらも、所属の形態にとらわれずにご本人の目標を意識した就労支援の関わりを大切に運営をされているとのことでした。就労準備として、実習の機会を多く取り入れ、実際の企業の雰囲気を通して経験を積めるように、代表の北村さんが企業経営者同士のつながりから、インターンシップ先の確保を行われているとのことでした。送り出す側と受け入れる側がお互いの責任をしっかりと確認し合い、企業同士という対等な関係を守りながらも、事業所の方針や考え方をしっかりと伝え、実習先との関係性を築くことを大切にしているそうです。



代表 北村さん(左)、
サービス管理責任者 池田さん(右)にご対応いただきました。

株式会社 一落芭

就労継続支援B型事業所としてカフェを運営されている一落芭さんへ訪問させていただきました。事業所は、「どの様な方でも一度は社会に出て自分らしく頑張っていけるよう背中を押したい」「社会に出るために努力をされる方々の人生に携わりたい」との思いで立ち上げられたそうです。今年で2年が経過し、模索や試行錯誤されていることも様々ある中で、当初の思いを大切にしつつ「働くとはどういうことか」「社会に出ると求められる力とは何か」等、就労への意識に働きかけることや先々を見据えた発想を共有しながら、個別の対象者との関わりをされているとのことでした。コロナウイルスにより、作業活動の減少や、ステップアップに向けた職場見学等の機会が減っている状況もあるようでしたが、その中でも「楽しく事業所に通うこと・働く楽しさを知って頂くこと」を重点として今後も事業運営を行っていきたいとお話を伺いました。



専務取締役の田中さん
にお話を伺いました

今後も訪問を進めて参りますので、よろしくお願いいたします